

令和 5 年 3 月 28 日

福津市長 原崎 智仁 様

福津市観光産業活性化協議会

会長 千 相哲



第 2 次福津市観光基本計画の中間見直しの結果について（報告）

このことについて、下記のとおり報告します。

記

1, 第 2 次観光基本計画進捗状況調査の結果

令和 4 年度に実施した「第 2 次福津市観光基本計画に係る進捗状況確認調査」の結果について確認しました。これらの調査結果データを基にして、市の活性化に向けてどのように取り組んでいくのかを明確にしていく必要があると考えられます。本協議会の所見としては、次のとおりになります。

- ・自動車による来訪が多い結果から、道路から視認できる標示板等のハード面における観光客受け入れ態勢の整備が必要であると考えます。
- ・回復傾向にあるインバウンド対応としては、多言語対応の改善・強化が求められます。特に、韓国や中国といったアジア圏域に対応するものが現状不十分であると見受けられます。
- ・調査実施にあたって、調査内容及び対象者に応じて、定量調査と定性調査を選別することが必要であると考えます。
- ・宮地嶽神社への参拝客が多いことは以前から変わっていませんが、そこから他の観光スポットへ周遊を促進する取り組みが必要であると考えます。
- ・観光スポットの中で、まだトイレが洋式化されていないところがあるため、計画的な整備が必要であると考えます。
- ・観光客を集めるためには、宿泊施設や交通手段などの環境整備は欠かせません。中でも、宿泊施設が少ない本市の現状では、滞在時間を増やし、観光消費額の増加につなげることが難しく、上質な宿泊施設の誘致に取り組む必要があります。

2、令和4年度目標に対する達成状況の確認

令和3年度実績による観光入込客数調査及び令和4年度第2次観光基本計画進捗状況調査の結果を踏まえて、中間目標値に対する計画進捗状況の確認と見直し等について審議しました。

「満足度」については、中間目標値を上回る結果となっていました。それ以外の項目は達成できていませんでした。「リピーター率」については、中間目標値には達しませんでした。97%以上の達成率ということで、今後、市の観光施策や関係団体の活動等により目標値の達成を期待します。

「観光入込客数」及び「延べ宿泊者数」については、目標値を大幅に下回る結果となっていますが、これは新型コロナウイルス感染症の影響によるものと想定されます。

また、「観光消費額」を算出する上で基礎データとなる「観光消費単価」及び「観光入込客数」の設定について、今後の調査方法も含めて再検討の必要があると考えます。

3、目標数値に関する審議の結果

本計画は計画期間を令和2年度から令和11年度までの10年間としており、目標数値を設定しています。しかしながら、令和元年度後半から世界規模で起こった新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新しい生活様式への転換や、国際的な往来の制限の実施等により、国内外における観光客数が減少し、観光産業全体が大きな影響を受けました。本市においても令和4年度調査では、当初計画していた目標値を大幅に下回る結果となっています。

この世界規模の未曾有の事態は、計画策定当初は想定できないものであったことから、計画目標値を修正するか否かについて本協議会で審議しました。

昨今、ワクチン接種の普及などを踏まえて、政府は令和5年度に感染症法上の分類を5類へ引き下げる見通しを示しています。また、令和5年1月に日本政府観光局（JNTO）は訪日客数の減少に歯止めが掛かり、インバウンドが順調に回復していることを発表しています。これら観光産業の盛り返しが期待できることに合わせて、国や県も補助事業を拡大し、新たな観光コンテンツ造成や魅力発信業務の後押しも実施されています。本市においても、計画目標値に向けて、観光事業に関する施策を展開していく意向を示しています。

以上のことを踏まえ、今回の中間見直しにおいて、当初目標値を修正せず、今後の観光産業の回復状況とその後押しとなる本市の施策に期待します。